

事務事業チェックシート

事務事業No 252 事業名 老人日常生活用具給付等事業

[事業基本情報]

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	2	高齢者・障害者支援の充実
施策	1	高齢者の生活の充実
基本方針	5	高齢者の在宅福祉サービスの充実

事業区分(1)	事業経費		管理経費	
	その他	○		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		民生費	
	項		社会福祉費	
	目		老人福祉費	
	大事業		老人福祉事業	
	事項		老人日常生活用具給付等事業	

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	H1	～	
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	高齢者・地域福祉課	佐々木 忍	435-1063
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	市内に居住する65歳以上のひとり暮らし高齢者等で心身の機能の低下に伴い防火等の配慮や日常生活の便宜を図る必要がある方に対して、日常生活用具を給付することにより、その日常生活の便宜を図り、もって福祉の増進に資することを目的とする。	在宅高齢者に対し、電磁調理器・火災警報器・自動消火器・ふとん乾燥機を給付することにより、日常生活の安全と便宜を図る。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		生活保護世帯及び市民税非課税世帯に属する高齢者に電磁調理器、火災警報器、自動消火器、ふとん乾燥機を給付。 (ふとん乾燥機については、要介護認定による介護度が1～5のいずれかの方。)	生活保護世帯及び市民税非課税世帯に属する高齢者に電磁調理器、火災警報器、自動消火器、ふとん乾燥機を給付。 (ふとん乾燥機については、要介護認定による介護度が1～5のいずれかの方。)	生活保護世帯及び市民税非課税世帯に属する高齢者に電磁調理器、火災警報器、自動消火器、ふとん乾燥機を給付。 (ふとん乾燥機については、要介護認定による介護度が1～5のいずれかの方。)	生活保護世帯及び市民税非課税世帯に属する高齢者に電磁調理器、火災警報器、自動消火器、ふとん乾燥機を給付。 (ふとん乾燥機については、要介護認定による介護度が1～5のいずれかの方。)	生活保護世帯及び市民税非課税世帯に属する高齢者に電磁調理器、火災警報器、自動消火器、ふとん乾燥機を給付。 (ふとん乾燥機については、要介護認定による介護度が1～5のいずれかの方。)

2 事業コスト

事業費等 千円			平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
			当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費		2,116	1,478	2,117	1,553	1,892		1,892		1,892	
	伸び率 (%)		-	-	0.0%		-10.6%		0.0%		0.0%	
	人件費	常勤職員	2,040	1,953	1,953	1,959	1,959		1,959		1,959	
		非常勤職員		0	0		0		0		0	
		小計	2,040	1,953	1,953	1,959	1,959		1,959		1,959	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
	その他											
	一般財源(税等)		2,166	1,478	2,117		1,892		1,892		1,892	
	所要人数	常勤職員	0.27	0.26	0.26	0.26	0.26		0.26		0.26	
非常勤職員		0.00	0.00	0.00		0.00		0		0		
主な予算内訳												

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	申請者数				年度目標値	103	103	103	103
					実績値	78	93		
	単位	人	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	75.7%	90.3%		
					年度目標値				
					実績値				
成果指標	給付件数				年度目標値	103	103	103	103
					実績値	78	89		
	単位	件	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	75.7%	86.4%		
					年度目標値				
					実績値				
	単位		全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	日常生活に支障を来しているひとり暮らし高齢者に対し、電磁調理器や自動消火器、火災警報器等を給付することによって、日常生活の便宜を図り、安全安心な在宅生活を送ることができる。
「見直し」 「改善」案	当面見直しの必要性は感じられない。